

# 吉野作造記念館だより

〈編集・発行〉特定非営利活動法人 古川学人

## 企画展「吉野作造と日本国憲法」 — 施行から六十年 —

二〇〇七年三月一八日～五月二日

当館では、企画展「日本国憲法と吉野作造」を五月三日まで開催しています。第一部では、自由民権期から大正デモクラシーにかけての民衆の動きについて宮城県を中心に紹介します。第二部では吉野作造の明治文化研究における功績と、吉野の研究方法を受け継いだ鈴木安蔵を取り上げ、日本国憲法制定に果たした役割を紹介し、第三部では戦中・戦後を橋平酒造店佐々木一郎氏提供の珍しい資料で「古川」というレンズを通して紹介します。

### I 自由民権運動から 大正デモクラシーへ

展示では「古川町における赤松克麿立候補演説会」―応援弁士・吉野作造―と司会をした大友為三郎の古川町議の立候補・公約のチラシ等を展示する。

古川中学校（現古高）第一回卒業生・鈴木文治は、一九二二（大正元）年、友愛会を結成し、一九二二（大正十）年には日本労働総同盟と改め、組織を拡大して労働運動を発展させた。

### II 吉野作造と日本国憲法

吉野が晩年心血を注いだ明治文化研究は、それまで未開拓だった日本近代史研究の道を開いた。吉野にとってその研究は、正史編纂に対して、資料によって「本当の歴史」を示そうとする試みでもあった。そして、吉野の資料の扱い方と研究方法は、憲法史家・鈴木安蔵（一九〇四～一九八三）に受け継がれた。一九三三年一月八日午後、鈴木は研究の指南を求めて吉野のもとを訪ねた。吉野は二時間余にわたり憲法制定史研究の意義と方法を話し、必読文献を紹介した。頼るべき師を持たなかった鈴木にとって、吉野の存在は大きな励ましとなった。そして、鈴木は示唆された方向性に従って研究を進めた。

敗戦後、憲法改正問題が浮上するなか、鈴木は統計学者高野岩三郎（一八七二～一九四九）らとともに憲法研究会を結成、鈴木が中心となり改正案起草作業が進められた。完成した「憲法草案要綱」は、国民主権や法の下の平等などを取り入れた極めて民主的な内容であった。GH

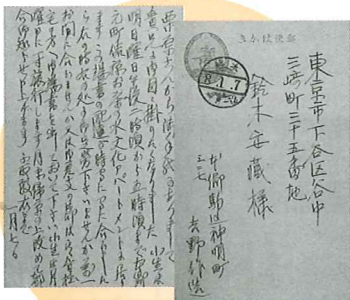
Qはこの案を、最も自由主義的だと評価し、自らの改正案起草の参考とした。吉野の思想や活動は鈴木安蔵に受け継がれ、日本国憲法に生かされた。

### III 刊行物の移り変わり — 戦中から戦後へ —

- 勝札
- 福券
- 愛国婦人会たすき
- 志田郡民号飛行機写真
- 古川町寄附割当金額

一九四五（昭和二十）年八月十五日、玉音放送。九月には古川町に進駐軍がやって来た。また、各戦地から皆帰って来た。汚れた戦闘帽を被り、軍服を着て帰って来た。皆汚れたリユックサツクを背負っていた。

一九四六（昭和二十）年十一月三日、日本国憲法が公布。当時の食糧事情を象徴するものとして、米の配給制度、外食券制度があった。また、次々と雑誌・書籍が発行された。



鈴木安蔵宛 吉野作造ハガキ  
(1933年1月7日付)

NPO法人 古川学人  
理事長 佐々木 源一郎

NPO法人古川学人は、昨年三月、古川市と吉野作造記念館の管理運営に係る基本協定を結び、民間人の特性を生かし、市民に対するサービスの向上と地域の分解の一層の増進を図ることを確認した。

最近、博物館法の改正論議が盛んになり、文化と学術の在り方を問い直す動きがある。吉野作造記念館も博物館法に準拠して設立された施設である。社会の文化発展に寄与し、人間を育てるといふ博物館の意義は、軽視すべきではない。ところが、自治体の財政硬化に伴い、公的施設の管理について、効率性と経済性（コスト削減等）を重ざる傾向が現れている。

昨年十一月、日本学術会議主催の講演会で「人間は経済のために生きるのではない。手段でしかない経済の文化をさせ細らせるのが指定管理者制度だ」と訴える学者がいた。注目すべき発言である。

国際博物館会議（ICOM）の規定で博物館を「非営利的常設」と明記し、条件付ながら「公立博物館は入館料その他の対価を徴収してはならない」としている。

改めて吉野作造記念館の管理運営にあつたての基本的な考え方を、市当局と協議すると共に、記念館の存在意義を確認し、施設の活用について広く市民各位の協力を期待する。



のんき  
～呑喜について～

# 人生はおでんの如し

吉野作造記念館 館長 田中昌亮



「この物語は、その失われた青春に捧ぐる私の挽歌である。この世から姿を消した一高に捧ぐる一つの悲歌である。この筆をとる二、三日前、私はふたたび思い出の駒場の丘を訪れた。渋谷から帝都電鉄で五分、二つの短いトンネルを横切って、三両連結の電車は、十年前と少しも変わらぬ『一高前』の駅につく。右に石段を降りて行けば、むかしはそこに『のんき』というすし屋、『一幸』という喫茶店、私たちの事のあることに屯した二軒の店があったのだが、爆撃に焼きつくされたその跡に、むかしをしのぶ由もない。」(わが一高時代の犯罪・高木彬光より) 私は「呑喜」はおでん屋と思っていた。

人ならお馴染深い、さもなくばイキ筋の名と間違いられないとも限らない。呑喜は本郷追分のおでん屋で、明治文化研究会と呑喜は必ず付きものであったが、一面先生の最も眞にされたおでんやであった。そんな関係で、明治文化研究会の夕食にはおでんと茶飯に決まっていた。」吉野先生の好物は菟蓐であったらしい。

木下順二氏は「本郷」の中で詳しく「呑喜」について書いている。元来は道路の屋台で立ち食いときまっていたおでん屋なるものを、初めて家の中で食うという趣向に仕立てたのは呑喜の二代目だそうである。」

私は平成十年七月二十九日夕方「吉野先生を記念する会」の皆さんと呑喜に行った。その時は四代目の兄弟の方が経営していた。早速私は質問をした。『わが一高時代の犯罪』という高木彬光の小説にでている『のんき』というすし屋さんは「呑喜」と何か関係がなかったでしょうか。」すると店主は奥へ入って行き一枚のチラシを持って来て私に見せてくれたのである。

『どういわけか一枚だけチラシが残っていたのです。『のんき』は『呑喜』の支店です。』そのチラシの全部をそのまま紹介します。私達はビールとおいしい「おでん」を食べて後にした。



「先輩曰く 人生はおでんの如しと君亦おでんを愛せよ

而して青春の感激更に新なり

呑喜 おでんとおすし十日開店

此度駒場一高前に開店致すことになりました。

歴史あるのんきのおでん・おすし御賞味下さい

— 一高生活の思ひ出に —

帝都電鉄一高駅前 呑喜支店

本店 追分町電車通り

支店 早大正門前通り

電話 小石川 四七六六番





古川高等学校見学の様子

はじめに、日本史の門外漢の者がこの文章を書いていることをお断りする。専門とする方々から見ると浅学の者が偉そうに語っているとお感じになることをお許し頂きたい。

毎年、3月に1年生を対象に吉野作造記念館を訪問させていただいている。吉野作造は中学校で使用する教科書にも登場し、また、郷土を代表する歴史的人物でもあるから、高校1年生にとっても既知の人物である。大正時代は、後に「大正デモクラ

# 吉野作造記念館に生徒を引率して

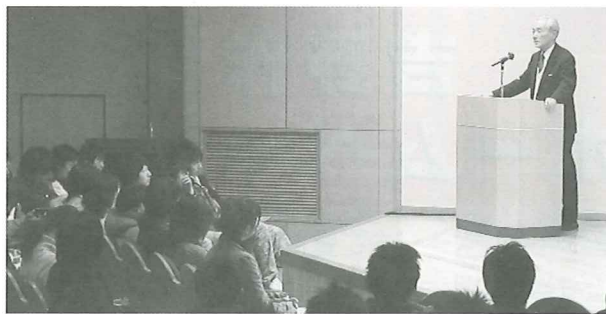
宮城県古川高等学校 教諭 上園 知明

シー」と呼ばれる民主主義的な風潮が起こる。吉野がデモクラシーを「民本主義」と訳し、政治の目的が民衆の福利にあると説く。今日の政治では当たり前のことではあるが、大正時代にそれを説く吉野には、ただ敬服するのみである。

大正時代は第一次、第二次の護憲運動が起こったり、本格的な政党内閣の原敬内閣や護憲三派の内閣である加藤高明内閣が成立するなど、かなり民主的な時代であったと考えられる。その後、昭和初期も五・一五事件で犬養内閣が倒れるまでの間は憲政の常道とよばれる政党政治が行われた。

中学校の社会科で現在の日本政治のしくみを学ぶ。そのときに、明治憲法下での政治と日本国憲法下の政治を比較したりするので、日本は第二次世界大戦後に民主的な政治がスタートしたかのような印象を中学生は持ちやすい。しかし、大正時代に見られるように、民主的な政治は戦前の明治憲法下でも行われていた。

生徒たちは吉野作造記念館の



古川高等学校見学の様子

見学を通して、大正「デモクラシー」を学ぶとともに民主的な政治が成立した後でも、戦争の時代が来た過去を学び、日本が今後、戦争をしないためにはどのような進めればよいのか、逆にどのような歴史を歩んではいけないのかを考えるきっかけにして欲しいと思う。歴史から学ぶのが賢者である。

# 千葉亀雄と吉野作造

前吉野先生を記念する会 会長 高橋 よし子



吉野作造の『学友』の一人を紹介したい。ほんの短かい間ではあるが、仙台の第一中学校で机を並べた仲である。

隣の美里町図書館正面の壁には和服に見事なカイズル髻をたくわえた紳士の姿が大きく描かれている。この人物こそ「美

里町近代文学館」の主、千葉亀雄である。

千葉は吉野と同じ明治十一年の生まれであり、同じ年に仙台の尋常中学校（現在仙台一高）に入学したのであるが、六歳の時、山形県酒田中学校で教師をしていた父を失い、父の郷里の不動堂村に帰って来たのである。

しかしこの地でも女手で子供達を育てるのは無理だったので、一番小さい亀雄の小学校卒業と同時に仙台へ移り住み、亀雄は中学校に入り、母は住み込みで働くことになった。つまり家族はばらばらに住むことになった。亀雄は牛乳や新聞の配達をしながら生活し、投稿雑誌『文庫』に投稿しながら、ひたすら文学への道をめざした。文章修業と同時に英語の学習に没頭した。世界文学は英訳本として日本に入っていたので、英語読解力を確かなものとしていた亀雄は驚異的速度で読破していった。

『文庫』へ投稿する千葉の文章は、形・内容共に充実して来たので、選者に認められ、明治三十二年一月、二十二歳で内外出版協会へ入社が叶い、ここにジャーナリストとしての千葉の生涯が始まった。その後、数々の大新聞の編集長、学芸部長などを経るうち、日本の作家達を育てることも大いに力をつくした。

吉野の歿後編まれた『故吉野博士を語る』にも千葉も一文を寄せている。これによると、千葉は吉野達が催す会合に出席して吉野の様子をやさしく見守っていたようだ。時には、呟き込む背中をさすっていたのではないかと思われる程だ。そして、断言する。「吉野君ほどの人物を出したのだから、宮城県ももう自慢していいのではないか」と。



昨年5団体の方々から、田中館長へ講演・講座の依頼がありました。  
講演の内容は下記の通りです。

月 日	主 催 者	講 師	解 説 内 容	会 場
5月21日	吉野先生を記念する会	館長 田中 昌亮	「戦中と戦後 吉野作造と日本国憲法」	吉野作造記念館 (講座室)
6月 1日	仙台YWCA	館長 田中 昌亮	小説で読む吉野作造と その時代	吉野作造記念館 (講座室)
7月 8日	宮城女性9条の会	館長 田中 昌亮	吉野作造と日本国憲法	仙台YWCA
7月11日	いきいき学園 (大崎校)	館長 田中 昌亮	吉野作造と畑毛温泉 — 白樺派と理想主義 —	パレット大崎
8月23日	いきいき学園 (石巻校)	館長 田中 昌亮	日本国憲法公布60年 「吉野作造と石巻の人山内 習・木村盛・今井彦三郎」	東矢本コミュニー センター
12月 2日	吉野先生を記念する会	館長 田中 昌亮	「古川学人兄弟姉妹 12 人と7人の子供たち」	吉野作造記念館 (講座室)

# 吉野作造記念館 ホームページのお知らせ

吉野作造記念館のホームページをご覧になられたことがありますか。  
平成18年6月より当館のホームページが新しくなり、これまで以上に利用し易くなりました。沢山の情報が掲載されておりますので、是非、ホームページを訪れて下さい。

## 吉野作造について

- 吉野作造の人物像
- 吉野作造の周辺の人々
- 吉野作造こぼれ話
- 吉野作造記念館の一品 等

## 記念館について

- ご利用案内
- 施設のご紹介
- 書籍及び貸室案内
- イベント情報 等

## ホームページアドレス

<http://www.yoshinosakuzou.jp/>  
「吉野作造記念館」で検索してください。

大正時代の貴重な写真や映像を  
強力な巨大スクリーンで上映。  
自分が大正時代にタイムスリップ  
したような体験が出来ます。

上映時間のご案内 (上映時間約20分)

第1回目 午前10:00	第5回目 午後02:00
第2回目 午前11:00	第6回目 午後03:00
第3回目 正午01:00	第7回目 午後04:00
第4回目 午後01:00	

● 巨大スクリーンについて詳しく



## 井上ひさしの

## 吉野講座 16

二〇〇七年二月十四日に、吉野作造記念館名誉館長であります井上ひさし氏をお招きし講演会を開催しました。今回の講座は、第十六回目の開催となり、多数のご来場を頂きました。その講座内容を交えながら、紹介致します。

「吉野講座」  
第十七回も楽しみ

伊勢 行雄

三月四日、第十六回吉野講座

閉会の時、講師の井上ひさし名誉館長さんの消息について、ごく短時間で申し上げましたので少しつけ足しをさせていただきます。

この二月、三月に井上先生のお顔を四回拝見を致しました。

一回目は、三月七日の読売新聞で「日本市夕張村になろう。」という提言でした。夕張市を救う道はないのか、夕張市は夕張村になつて身軽になるべきだというお話でした。

いつもの様に説得力のあるお写真が記事のまん中にありました。



井上ひさし氏講座の様子

次は二十七日の読売新聞で、千葉県市川市で開かれてい  
る「一本のペン先から広がる世界」井上ひさし展開催のお知らせでした。

吉野作造記念館  
井上ひさし名誉館長 略歴

1934年山形県川西町生まれ。小説家・劇作家、上智大学卒業。1964年からのNHK人形劇「ひょっこりひょうたん島」(共作)の台本で知られ、戯曲・小説・エッセイと多様な活動を続ける。現在、日本ペンクラブ会長、戯曲『道元の冒険』(新潮社、岸田戯曲賞・芸術選奨新人賞)『シャンハイムーン』(集英社、谷崎潤一郎賞)小説『手鎖心中』(文藝春秋、直木賞)『吉里吉里人』(新潮社、日本SF大賞・読売文学賞)『井上ひさしコレクション』(岩波書店、全3巻)『兄おとうと』(新潮社)など著書多数。

市川市は、さきに井上先生が二十年間お住みになっていた所で、今回展示会のために再現された自宅書庫での写真で若い時代の雰囲気を感じられるお姿でした。

第三回目は、三月一日夜七時三十分からのNHKクローズアップ現代で「大丈夫、あなたの敬語」という放送ご出演でした。現代の敬語の乱れなどに対するお考えを伺いました。ひとこと、ひとことご配慮のあるお話でした。

そして、第四回目が三月四日です。ご多忙な中日時を繰り合つ

ていただいで、日曜日の夜一時間四十五分二百人のご指導を受けることができました。

●地球を救えと言うけれど、地球は大丈夫なのです。人間が大変なのです。

●南半球は非核兵器の時代になっています。核兵器でもめているのは北半球だけです。

●赤ちゃんポスト、吉野先生は一九一八年(大正八年)に賛育会を発足させています。

など、また大事なことを心に刻むことができました。次回の講座が待たれます。

著書の  
お知らせ

吉野作造

人世に逆境はない

田澤晴子 著

定価 3,000円(税別)

ミネルヴァ書房

吉野作造(1878~1933)政治学者。大正デモクラシー期、「民本主義」を提唱した吉野作造。政治学者としてののみならず、社会事業や文化生活の理想の追求、明治文化研究など、その活動は多彩であった。本書では、「民本主義」に留まらない新しい吉野像を紹介するとともに、郷土宮城県との関わりも明らかにする。

※著書は当館で、販売していません。

購入希望の方は当館までお問合せください。





# イベント紹介

## 2007年3月

### 吉野作造講座

二〇〇六年八月二十六日～十二月十六日

本年も当館、田中昌亮館長による吉野作造講座を開催しました。六回にわたる講座では「日本国憲法公布六〇年・民本主義を唱えて九〇年・中央公論二〇年」をテーマにお話しました。一九一六年（大正五）吉野は『中央公論』誌上に「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの

途を論ず」を発表し、民本主義を唱えました。このことは論争を巻き起こし、大正デモクラシーを活性化させました。それから九〇年、吉野の思想はどのようか。毎回違った切り口で資料を用いて紹介しました。また、十二月九日には元高等学校教諭、

### 猪木武徳氏講演会

二〇〇七年一月二十七日

国際日本文化研究センター教授の猪木武徳氏を講師にお招きし、講演会を開催しました。猪木氏は経済思想・労働経済学の第一人者で、二〇〇二年には著書『自由と秩序―競争社会の二つの顔―』で読売・吉野作造賞を受賞されました。現在、その選考委員をされています。二度目の講演となった今回は、吉野作造にちなみ「戦後日本のデモクラシー―その試練と課題―」というテーマでお話して下さいました。講演では、民主制社会

の特質をふまえながら、多数決原理の問題点を鋭く指摘し、会場からは頷く姿も見られました。



▲ 猪木武徳氏による講演の様子

後藤一蔵氏を講師に迎え「大正期における青年組織の諸相―大正デモクラシーとのかかわりにふれながら―」というテーマでお話いただきました。受講された方々は大変熱心にメモを取りながら聞き入っていました。



▲ 田中館長による講座の様子



▲ 講師の後藤一蔵氏講話の様子

### 読売・吉野作造賞受賞者講演会

### 長谷川毅氏講演会

二〇〇七年二月十四日

二〇〇六年度読売・吉野作造賞受賞者講演会を開催しました。本年の受賞者はカリフォルニア大学サンタバーバラ校歴史学部



▲ 講演中の長谷川毅氏

教授、長谷川毅氏です。受賞作品は『暗闘―スターリン、トルーマンと日本降伏』で、同作品で司馬遼太郎賞も受賞しました。講演のテーマは「太平洋戦争における日本降伏と国体の定義」で、歴史学者の観点から興味深いお話をしてくださいました。会場を訪れた方々は熱心に聞き入っている様子で、講演の後にはたくさんの質疑の手が伸びました。講演に先立ち長谷川氏にサインしていただいた受賞作品を限定十冊販売しました。書店では手に入らないとあって大変好評でした。



# こ れ ま で の

## 2006年4月

### ゴールデンウィークイベント

二〇〇六年五月三日～五月五日

今年も恒例のゴールデンウィークイベントを開催し、記念館は連日多くの子供たちで賑わいました。

「つくってみよう」コーナーでは子供の日にちなんで、鯉のぼりのカードを作ってもらいました。開くと鯉のぼりが飛び出す仕掛けに子供たちも喜んでいました。また「みんなで遊ぼう」コーナーでは、空き箱を使ったデンデン太鼓や厚紙で作る跳ねるおもちゃ、ビニールに好きな絵を描いて作る風船など楽しみながら、簡単に作れるおもちゃを紹介しました。研修

室では「忍たま乱太郎」や「おじゃる丸」「鉄腕アトム」など人気のアニメを上映し、子供たちのみならず、お母さんたちにも大変好評でした。



▲ デンデン太鼓作りの様子

### 記念館で夏休み

二〇〇六年八月五日

夏休みを記念館で楽しく過ごしてもらおうと、イベントを開催しました。

夏を感じる企画として、七夕飾りや、風鈴を作るコーナーを設けました。今回は七夕飾りの作り方だけでなくその歴史や、意味なども紹介し、学びながら

楽しめる内容にしました。研修室では懐かしい紙芝居や小津安二郎監督の代表作『東京物語』を上映しました。昭和の郷愁を感じる大変好評でした。ラウンジではアイスやラムネを販売し、まとめ買いする人の姿も見られました。

### 新収蔵史料展

二〇〇六年七月十五日～十月一日

二〇〇六年三月に、吉野家ご遺族より旧古川市に寄贈された史料三十一点のうち、新発見を中心に十五点を展示しました。この史料の多くは、吉野の三女・

故小松光子氏が自宅に保管していたもので、明治文化研究会の成果となる書籍や自筆の自宅表札など、吉野とゆかりの深い史料です。また孫文直筆の書「天下為公」は開館当時より当館常設展示室にて複製を展示していましたが、今回本物の寄贈を受けました。この書は孫文と吉野の交流を示す唯一のものとして歴史的価値の高い史料で、見学

に訪れた方々の関心と呼んでいました。



▲ 常設展示室入口にて展示



▲ 風鈴コーナーの様子



▲ 道具も使って昔ながらの紙芝居



二〇〇六年四月～二〇〇七年二月

# 寄贈資料一覧

（順不同）  
（敬称略）

多くの方のご厚意を得て貴重な資料をご寄贈いただいております。  
厚く御礼申し上げます。

## 〈資 料 名〉

- 『同志社談叢』第二六号 他二点
- 『東北大学百年史』六「部局史二」他一点
- 『The Economic Development of Japan』
- 『近代日本研究』第二二卷
- 『みやぎ聞き書き村草子』第二集
- 『大学史紀要』第十号「尾佐竹猛研究Ⅱ」
- 『東北学院資料室』第五号
- 『書物往来』第二卷第四号 他二点
- 『仙臺文化』第二号 他一点
- 『女性の会通信』第二五号
- 『暗闘 スターリン、トルーマンと日本降伏』
- 『ミネルヴァ日本評伝 吉野作造 —人生に逆境はない—』
- 『新生』第二巻第五号
- 『尚志』第七九号 他一点
- 『尚志の契り』
- 『鞍馬天狗とは何者か 大佛次郎の戦中と戦後』
- 『近代消防新書 国民の財産／消防団 —世界に類を見ない地域防災組織—』
- 『文藝春秋』平成一七年八月臨時増刊号
- 『労働リーダー』第三十巻第一号 他一点
- 『大正デモクラシーと東北学院 —杉山元治郎と鈴木義男—』
- 『どんぐりころころ物語 作詞者青木存義の生涯』
- 『初期社会主義研究』第十九号 他一点

## 〈寄 贈 者〉

- 太田 雅夫
- 東北大学百年史編纂室
- 政策研究大学開発フォーラム
- 慶応義塾福澤センター
- 境 数樹
- 明治大学史資料センター
- 仁昌寺 正一
- 菅野 又雄
- 渡邊 慎也
- 政治を考える女性の会
- 読売新聞社東京本社
- 田澤 晴子
- 安岡 昭男
- 第二高等学校尚志同窓会東京事務局
- 仙台市山田市民センター
- 赤間 保
- 後藤 一蔵
- 高橋 よし子
- 芳賀 清明
- 東北学院資料室
- 有永 壽
- 後藤 彰信

## 利 用 案 内

### 開館時間

午前9時～午後5時まで（入館は4時30分まで）

### 入館料

一般 310円 高校生 210円

小中学生 100円

（団体20名以上、割引有）

### 休館日

月曜日（但し祝日・振替休日に当たる場合は翌日）

年末・年始（12月29日～1月3日）

## バックナンバー

「吉野作造記念館だより」  
1号～14号

ご希望の方は記念館まで。

（※一部コピーで対応しております。  
ご了承下さい。）

# 吉野作造記念館

〒989-6105 宮城県大崎市古川福沼1丁目2番3号  
TEL 0229-23-7100  
FAX 0229-23-4979  
E-mail yoshino-npo.fg@blue.ocn.ne.jp